

1/1 ダニエル書 1章 8-21節 「身を汚すまいと」

小池 宏明 牧師

南王国ユダ（エルサレム）が陥落して、王国としてのイスラエルは滅びたが、バビロンに連れて来られた多く捕囚民の人生は続くことになる。連れて来られた捕囚民の中に、今日注目するダニエルと三人の友人たちがいた。彼らはイスラエル民族の中でも王族や貴族出身で、健康で、容姿端麗、知恵や知識、洞察力に富んだ人々だった。バビロンの王ネブカドネツアルは、彼らにバビロンの神々や風習を教育して仕えさせようとした。このように支配者側が支配されている捕囚民に、神格化したバビロンの王と偶像の神々に従うように押しつけてきた。

*ダニエルたちの信仰

ところが、8節「**ダニエルは、王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定めた。そして、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願うことにした。**」このダニエルたちの決心は、イスラエルの神、主なる神様への信仰のゆえだったと思われる。その理由の一つは、旧約聖書のレビ記（11章など）にあるような、主の民として食べることが禁じられている物が含まれていたからだろう。もう一つは、王様の食べる物が、最初に偶像の神々に捧げられた供え物だったからだろう。それで、ダニエルは、そのような食べ物で身を汚すまいと心に定めたのだ。偶像礼拝を避け、真の神様のみに従いたいというダニエルたちの信仰が表明された。

*この世と調子を合わせることなく

ダニエルたちは、異教世界で、異教の風習や習慣、食べ物などをすべて受け入れるのではなくて、すなわち、この世と調子を合わせることなく、主なる神様の御心を求め、御ことばの基準に従って判断した。（ローマ 12:2）私たちにとっても、主イエス・キリストを信じる信仰の決心は、生涯に一度だが、信仰生活は小さな決心の連続だ。神様から御ことばが示されて、新たな決心が与えられ、それを表明して、証し続けるのだ。さらに、ダニエルたちが、主の御心にかなって、自分の身を汚すまいと心に定め、それを表明したことで、主なる神様ご自身が豊かに働いて下さった。9節「**神は、ダニエルが宦官の長の前に恵みとあわれみを受けられるようにされた。**」主なる神様が、宦官の長の心を動かして、ダニエルたちが恵みと憐れみを受けるように導かれたのだ。このような出来事は「主のご命令を守る信仰者を、主なる神様が守られる」という原則を明らかにしている。

（第一テサロニケ 5：23-24）

新しい一年、身を正して、神様から与えられたこの身も心も汚さない、と心に定めて出発しよう。